中学国語　古文講座

# おくのほそ道①

## 《序文　その一》

基本の解説と問題

【担当講師】
秀浦　りき

(C) 2014 Prisola International Inc.

# おくのほそ道①

**《作品》ポイント**

・作品＝

・作者＝

・時代＝

・ジャンル＝

松尾芭蕉は、元禄二年（一六八九）三月、門人の曾良とともに、江戸の深川を出発し、奥州・北陸を経て美濃（岐阜県）の大垣に至る、行程二千四百キロメートル、約百五十日（約半年）の旅を行った。そのときの体験や見聞を記したのが「おくのほそ道」である。

〈「おくのほそ道」全行程〉

(C) 2014 Prisola International Inc.

## 《序文》ポイント

1

月日は百代(はくたい)の過客(くわかく)にして、行(ゆ)きかふ年もまた旅人なり。

①（　）　②（　）　（　）

（語句）①百代＝［　　］

②過客＝［　　］

〔訳〕

「月日は（　　　　）のようなものであり、過ぎては来る年もまた旅人のようなものである。」

★この文から読み取れる作者の人生観は？

「　　　　」

※対句とは
言葉の働きやリズムが似ている句を二つ以上組み合わせる表現技法。

（例）
おじいさんは　山へ　芝刈りに
おばあさんは　川へ　洗濯に

※擬人法とは
人間でないものを人間に見立てる表現技法。

（例）
・鳥が歌う

2

舟の上に生涯を浮かべ、③

馬の口とらへて老いを迎ふる者は、④（　）（　）（　）

日々旅にして旅をすみかとす。⑤

（語句）③舟の上に生涯を浮かべ＝

④馬の口とらへて老いを迎ふるもの＝

⑤すみか＝

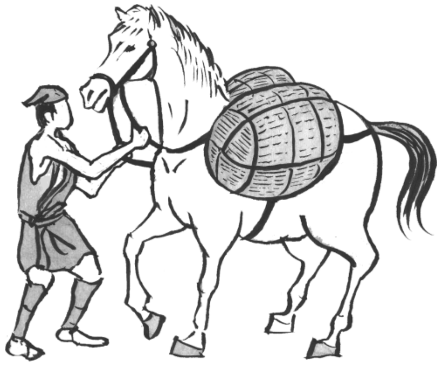
〔訳〕

舟の上で働いて一生を終える（＝　　）や、

馬のくつわをひいて年を取っていく（＝　　）は、

日々が旅であり、旅そのものを（　　）としている。

船頭



馬子

(C) 2014 Prisola International Inc.

3 ⑥古人も多く旅に死せるあり。

（語句）⑥古人＝［　　　］

〔訳〕「（　　　　）も旅の中で亡くなった人が多くいる。」

★昔の詩人とは具体的に誰のことか？

人生の大半を
旅の中で過ごした
詩人たち

「　　　」（唐の詩人）
「　　　」（唐の詩人）
「　　　」（平安時代末期の歌人）
「　　　」（室町時代の連歌師）

(C) 2014 Prisola International Inc.

# おくのほそ道①

**《作品》ポイント**

・作品＝おくのほそ道

・作者＝松尾芭蕉

・時代＝江戸時代前期

（元禄文化のころ）

・ジャンル＝紀行文

松尾芭蕉は、元禄二年（一六八九）三月、門人の曽良とともに、江戸の深川を出発し、奥州・北陸を経て美濃（岐阜県）の大垣に至る、行程二千四百キロメートル、約百五十日（約半年）の旅を行った。そのときの体験や見聞を記したのが「おくのほそ道」である。

〈「おくのほそ道」全行程〉

## 《序文》ポイント

1

月日は百代（はくたい）の過客（くわかく）（かかく）にして、

行（ゆ）きかふ年（こう）もまた旅人なり。

対句

擬人法

（語句）①百代＝**永遠**

②過客＝**旅人**

〔訳〕

「月日は（　**永遠の旅人**　）のようなものであり、

過ぎては来る年もまた旅人のようなものである。」

★この文から読み取れる作者の人生観は？

「**人生そのものが旅のようなものである**」

※対句とは

言葉の働きやリズムが似ている句を二つ以上組み合わせる表現技法。

（例）

おじいさんは　山へ　芝刈りに

おばあさんは　川へ　洗濯に

※擬人法とは

人間でないものを人間に見立てる表現技法。

（例）

・鳥が歌う

2

③舟の上に生涯を浮かべ、
④馬の口とらへて老いを迎ふる者は、
日々旅にして旅を⑤すみかとす。

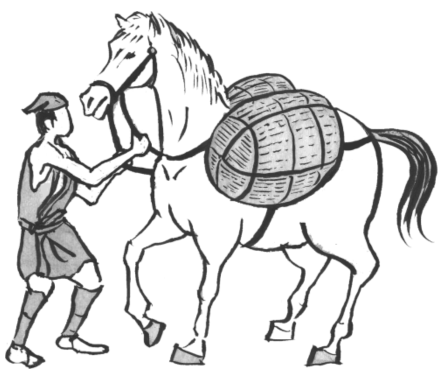
（え）（う）

対句

（語句）③舟の上に生涯を浮かべ＝船頭
④馬の口とらへて老いを迎ふるもの＝馬子
（馬方）（馬借）
⑤すみか＝住まい

〔訳〕
舟の上で働いて一生を終える者（＝船頭）や、馬のくつわをひいて年を取っていく者（＝馬子）は、日々が旅であり、旅そのものを（住まい）としている。

船頭


馬子

(C) 2014 Prisola International Inc.

3 ⑥古人も多く旅に死せるあり。

（語句）⑥古人＝ 昔の詩人

〔訳〕（ 昔の詩人 ）も旅の中で亡くなった人が多くいる。

★昔の詩人とは具体的に誰のことか？

人生の大半を旅の中で過ごした詩人たち

- 李白 （唐の詩人）
- 杜甫 （唐の詩人）
- 西行 （平安時代末期の歌人）
- 宗祇 （室町時代の連歌師）

(C) 2014 Prisola International Inc.

# 基本問題

(C) 2014 Prisola International Inc.

## 《基本問題》

●次の問いに答えなさい。

(1)次の語句の**読み方**を答えなさい。

①「百代の過客」

②「迎ふる」

(2)次の語句の**意味**を答えなさい。

①「百代の過客」

②「すみか」

③「古人」

(3)次の語句の表す**職業**を答えなさい。

①「舟の上に生涯を浮かべ」

②「馬の口とらえて老いを迎ふる」

(C) 2014 Prisola International Inc.

## 《基本問題》　解答

●次の問いに答えなさい。

(1) 次の語句の**読み方**を答えなさい。

①「百代の過客」　はくたいのかかく

②「迎ふる」　むこうる

(2) 次の語句の**意味**を答えなさい。

①「百代の過客」　永遠の旅人

②「すみか」　住まい

③「古人」　昔の詩人

(3) 次の語句の表す**職業**を答えなさい。

①「舟の上に生涯を浮かべ」　船頭

②「馬の口とらえて老いを迎ふる」　馬子

(C) 2014 Prisola International Inc.

# 応用問題

よくでる!

# 《応用問題》

1 次の（　）にあてはまる語句を解答欄にしたがって答えなさい。

「（①）」は、（②）時代前期、俳人である（③）が、門人である曾良とともに奥州や北陸を旅した体験をもとに記した（④）の傑作である。

| | | | |
|---|---|---|---|
| ① | ② | ③ | ④ |
| （作品名） | （時代名） | （作者名） | （文学のジャンル名） |

次のページへつづく

(C) 2014 Prisola International Inc.

2

次の1～6の文を読んで、後の問いに答えなさい。

1　月日は百代の過客①にして、
2　行きかふ年もまた旅人なり。
3　舟の上に生涯を浮かべ、②
4　馬の口とらへて老いを迎ふる者は、③
5　日々旅にして旅をすみかとす。
6　古人も④多く旅に死せるあり。

よくでる!

（1）①過客と同じ意味の言葉を文章中から抜き出しなさい。

（2）対句表現となっている文を1～6の文から2つ選び、解答欄に従って番号で答えなさい。

と

と

（3）擬人法で表現されてる文を、1～6の文から2つ選び、番号で答えなさい。

次のページへつづく

(C) 2014 Prisola International Inc.

やや難問!

(4) 1・2の文から読み取れる、作者の人生観を簡単に答えなさい。

| |
|---|
| |

(5) ②舟の上に生涯を浮かべ、③馬の口とらへて老いを迎ふる者とは、具体的にどのような職業を指しているか。それぞれ漢字二字で答えなさい。

| ② | ③ |
|---|---|
| | |

よくでる!

(6) ④古人とは、具体的に誰のことを指しているか。解答欄に従って四人答えなさい。

| | | | |
|---|---|---|---|
| (唐の詩人) | (唐の詩人) | (平安時代末期の歌人) | (室町時代の連歌師) |

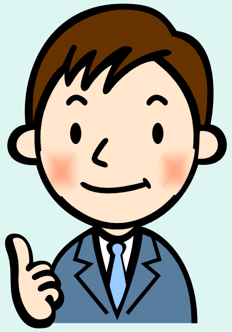
【問題は以上で終わりです】

(C) 2014 Prisola International Inc.

それでは、応用問題を
がんばって解いてください。

(C) 2014 Prisola International Inc.

確認・応用問題・Practiceの解答（PDF＆解説動画）は、

[http://e-clus.com/](http://e-clus.com/) で購入できます。

| 学習動画イークルース | 検索 |
|---|---|